

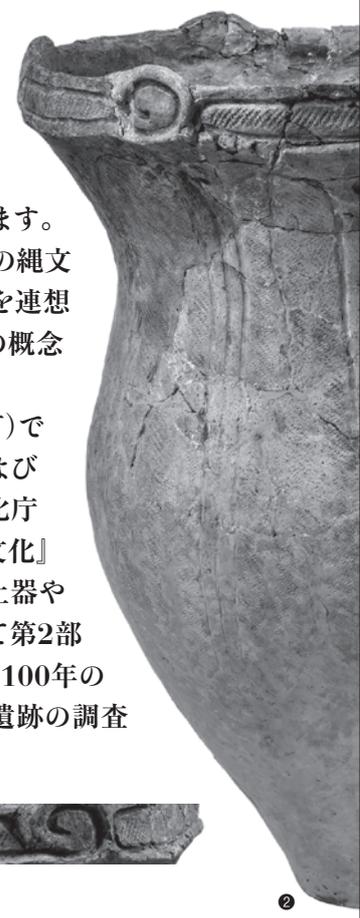
京都大学総合博物館 平成29年度特別展

火焰型土器と西の縄文

Flame Pots -Jomon-esque Japan 2017-

縄文時代1万余年の中で日本列島には、さまざまな縄文土器があります。火焰型土器は、現在の新潟県に相当する地域で出土する、約5000年前の縄文土器です。火焰型土器とは、大きな突起と立体的文様が燃えさかる炎を連想させることに由来するニックネームです。火焰型土器のデザインは、容器の概念を逸脱しているように見え、多くの人びとに注目されています。

新潟県の6市町(新潟市、三条市、長岡市、十日町市、魚沼市、津南町)で組織する信濃川火焰街道連携協議会は、火焰型土器を活用した地域振興および広域観光を推進しています。同協議会は、火焰型土器などを構成文化財として、文化庁の日本遺産に平成28年に申請し、『「なんだ、コレは!」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』の名称で、その認定を受けました。本特別展は、日本遺産認定を記念し、第1部で火焰型土器や同時代の土偶や石棒などの出土品を通して、その実態と魅力を多面的に紹介します。そして第2部では、京都大学の資料によって、火焰型土器と同時期の全国各地の土器を概観するとともに、100年の歴史をもつ考古学研究室が調査した西日本の縄文遺跡の出土品、大学構内や周辺の縄文遺跡の調査研究成果を紹介しながら、西の縄文の視点から火焰型土器について考えます。



Opening Ceremony オープニング・セレモニー

9.9
土

《特別対談／トーク&コンサート》

特別対談「火焰型土器を語る」 13:00~14:30(受付開始12:30)

小林達雄(國學院大学名誉教授) × 泉 拓良(京都大学総合生存学館特定教授)

会場: 京都大学百周年時計台記念館2階 国際交流ホール

定員: 200名(事前申込不要 先着順)

トーク&コンサート 15:00~16:30

【ミュージアム・トーク】15:00~ 佐藤雅一(新潟県津南町教育委員会)

【縄文コンサート】15:30~ 斎藤孝太郎(エレキチェロ演奏者)

会場: 京都大学総合博物館(入場には博物館入館料が必要です)

ミュージアム・トークは2階企画展示室にて、コンサートは1階で行います。

9.10
日

《研究講演会「火焰型土器と西の縄文」》

11:00~ 寺崎裕助(新潟県考古学会会長)

【講演】13:00~ 泉 拓良(京都大学総合生存学館特定教授)

14:00~ 建石 徹(文化庁美術学芸課)

会場: 京都大学総合博物館 3F講演室

(入場には博物館入館料が必要です)

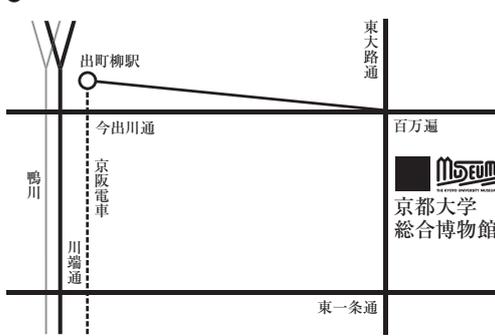
定員: 50名(事前申込不要 当日博物館受付にて整理券配布)

※9:45~10:30にはミュージアム・トークを2階企画展示室にて行います。

このほか、縄文土器ワークショップやミュージアム・トークを予定しています。イベントの詳細は、博物館ホームページにてご案内します。

<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/>

写真【表面】上段右から:《重要文化財》深鉢形土器(馬高遺跡)長岡市馬高縄文館/深鉢形土器(正安寺遺跡)魚沼市教育委員会(=裏面①)/深鉢形土器(長野遺跡)三条市/深鉢形土器(秋葉遺跡)新潟市文化財センター/上段左から:《重要文化財》深鉢形土器(堂平遺跡)津南町歴史民俗資料館(文化庁所有)/《国宝》深鉢形土器(笹山遺跡)十日町市博物館(以上、すべて新潟県内出土品)/深鉢形土器(大津市滋賀里遺跡)京都大学考古学研究室保管(=裏面②)【裏面】③《重要文化財》土偶(馬高遺跡)長岡市馬高縄文館/④深鉢形土器(倉敷市船元貝塚)京都大学総合博物館



京都大学総合博物館

【交通機関】
●市バス JR/近鉄京都駅から17・206系統、阪急河原町駅から3・17・31・201系統、地下鉄丸線今出川駅から201・203系統、地下鉄東西線東山駅から31・201・206系統、「百万遍(ひゃくまんべん)」下車徒歩約2分
●京阪「出町柳(でまちやなぎ)」駅下車徒歩約15分
※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。